

## 令和2年度 西区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和3年1月29日（金）午後1時15分から午後2時50分まで
会場	西区役所健康センター1階 大会議室
出席者	<p>西区自治協議会委員：20名（欠席16名）          P T A関係者：8名（各中学校区P T A代表）          教育委員：渡邊純子委員、五十嵐悠介委員          事務局：教育総務課長、教育総務課主査等                    学校支援課長補佐、学校支援課指導主事                    保健給食課長補佐                    坂井輪地区公民館長、坂井輪図書館長                    西区教育支援センター所長、指導主事2名</p> <p>西区役所：西区長、副区長、地域課長          市議員：6名（西区選出市議会議員）          傍聴者：4名</p>
議事	<p>1 開会          2 教育委員挨拶</p>
渡邊 教育委員	<p>こんにちは。教育委員の渡邊純子と申します。          今年2年目になります。昨年も西区を担当しておりました。          昨年の教育ミーティングのことを振り返りますと、皆さんが学校と地域、そして保護者とどうやってつながっていったらいいかということ、大変活発に建設的なご意見を語っていただいたなど記憶しております。</p> <p>本来ならば、今年、それを実行していく年であったはずなのですが、新型コロナウイルスという大きな壁にぶつかってしまい、新しい生活様式で学校運営をしていかなければならなくなりました。</p> <p>それでも、これからの時代を担う子どもたちの教育現場は、本当に日々進歩しております。G I G Aスクールについて、本日説明がありますけれども、これから皆さんのご協力や支援がますます必要になると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>今日は、本当に貴重なお時間をいただきまして感謝申し上げます。有意義な時間になればいいかと願っておりますので、よろしく願いします。</p>
五十嵐 教育委員	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>昨年の4月から、この西区の担当を受けることとなりました、教育委員の五十嵐悠介と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日は、皆様の貴重なお時間を頂戴いたしまして、1時間30分という限られた中ではございますが、このような場を設けていただきま</p>

	<p>した区教育支援センターの皆様にご心より感謝を申し上げたいと思っております。</p> <p>昨今のコロナの中で、皆様方もGIGAスクール構想というものをお耳にされたことがあるかと思ひます。他区の教育ミーティングの中にも、子どもたちの目が悪くなるのではないかと、外で実際に遊び、子どもたちが人と人の触れ合いをつないでいく、そういう時間がなくなってくるのではないかと、いろいろな不安の声もいただいております。</p> <p>しかし、一方で、このGIGAスクール構想によって、例えば今まで学校になかなか行けなかったひきこもりといわれる子どもでも、教育の機会を提供することができ、またコロナで学校が休みになっても、授業や学びを止めることがないといったメリットもございます。我々自身がどうやって子どもたちに悪いところを抑え、いいところを伸ばしていくかということ、それを学ぶ道具だと考えております。</p> <p>ぜひ、本日お越しいただいた皆様へ、その良い点、悪い点をしっかりと認識していただきまして、自分たちの地域、自分たちのお子さんに、それをフィードバックする、そのような素晴らしい機会になることを期待しております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p>
議 事	<p>3 説明</p> <p>(1) これからの時代の学校教育について (タブレットを活用した授業)</p> <p>(2) 新しい生活様式を踏まえた学校運営について</p> <p>(3) 西区 学校現場の現状</p> <p>(4) 質疑応答</p> <p>※ (1) ~ (3) の説明内容は会議資料を参照</p>
司 会  自治協委員	<p>それでは、これより質疑応答の時間に入りたいと思ひます。</p> <p>これまでの説明の中で、ご質問ご意見がある方は挙手願ひます。また、ご発言の際には所属とお名前もお聞かせください。では、ご質問ご意見ある方がおりましたら挙手願ひます。</p> <p>大変分かりやすいご説明、ありがとうございました。</p> <p>感想なのですが、1人に1台配布されるタブレットを子どもたちが使いこなせる時代が来ると本当に素晴らしいですし、世の中も飛躍的に発展するのではないかと非常に興味深く聞かせていただきました。</p> <p>ただ少し気になることがありまして、LINEを使いたいじめや、先ほどのコロナのところで行われた外国人の子どもに対してのいじめは、許されないことだと言われていたのですが、まず基本的に、子どもの情操教育や人権教育がなければならないと思ひております。いろいろな情報にアクセスしやすくなるということは、逆にいろいろなお立場か</p>

ら提供されるさまざまな情報、特にコロナについての情報はたくさん流されていますので、そうした情報に対する子どもの判断能力も併せて向上するようにしていかなければいけないと思っています。今のご説明を聞いて、その辺もきちんと取り組まれているとのことでしたが、ぜひ人間としての基本的なマナーや人権意識についての勉強を重視して取り組んでいただけたら、本当に素晴らしいと思いました。

また、質問になりますが、G I G Aスクール構想の取り組みの中で、そういったマイナス面を補っている具体的な取り組みがあったらお聞かせいただきたいと思います。

#### 学校支援課

ありがとうございました。本当におっしゃるとおりだと思います。

情報活用能力を育むということが、このG I G Aスクール構想で言われているものです。その中にプログラミングなどいろいろなことがあります。やはり今おっしゃられたような情報モラルのことも当然含まれると思っています。本当にありがとうございます。そのことについて、貴重なお時間ですが、今紹介したいなと思っている二つの話があります。

一つ目は、G I G Aスクール構想に関わるホームページを立ち上げています。スマホから、誰でも見られるように作ってあります。新潟市のG I G Aスクールのホームページが全国で注目されているくらい、今一生懸命作っているところです。少しPRになりますが、そのホームページでは、どんなことを学校でやっているか、i P a dの使い方からスイッチはどこにあるのかまで、さまざまな情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

二つ目がG I G A宣言です。これはだめだ、あれがだめだというふうにして、ルールを決めてやることも、確かに一つの方法だとは思いますが、でも、本当にそれでいいのだろうかということです。この間、(G I G Aスクールの)授業開き(の視察)に行ったとき、中学3年生のクラスで、G I G A宣言をやっていました。新潟市のG I G Aに関する、私たちのルールは二つだけです。読み上げます。「私たちはこの端末を利用するときに、次のことを守ります。学びを深め、学校生活を豊かにするために活用します。人が嫌がることや人を傷つけることはしません。」たったこれだけのルールですが、ある学校の中学校3年生は、生徒会役員の生徒が放送で言って、その後全校一斉で復唱していました。その様子を見て、新潟市の生徒は素晴らしいなと思いましたし、小学校でも同じようなことをしていました。細かいものを決めることが、さっき言った生き抜く力を育てていることではないかと思っています。こういう呼びかけで、これはどうなのだろうと自分の中で考えて行動できる人間こそが、本当に生き抜く力のある児

	<p>童、生徒なのではないかと思っています。</p> <p>例えば、人が嫌がることをしてはいけないとよく言いますよね。しかし、人によって嫌がることは違ってくると思うのです。人のことを考えて行動できる人間になることはとても大事で、それを目指して、私たちはやっているつもりです。そして、新潟市の子どもたちはそれができるとしています。皆さんがおっしゃるように、学校もそうした子どもたちになるよう、これからも取り組んでいきますので、皆さんももし話す機会がありましたら、こうした子どもたちになってほしいよね、と言っていたくようお願いしたいと思います。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。他にご意見ご質問がある方はいませんか。ある方は挙手願います。</p>
<p>P T A関係</p>	<p>今日のようなお話を聞きたいなと思っていたので、本当にためになりました。今日の説明を聞いて、率直に思ったことをお話させていただきたいと思います。</p> <p>私どもの中学校は、実はつい最近まで県下で一番大きい学校でした。生徒の数もかなり多く、先生も入れると、約千人弱くらいが常に校内の中で活動している状況にあります。このG I G A構想がスタートしますと、タブレットを持って、どこにいても授業が行えて、学校にいなくても生徒とつながり、先生ともつながることができるので、すごくいい取り組みだなと思いました。インターネットの環境が整えば、さらにいろいろな幅広い活動ができるとしています。</p> <p>中学校では今、新しい生活様式で三密を控えましようとしているものの、なかなか三密を回避できない現状にあることを先生から聞いております。学校が工夫しながらやっているものの、生徒の数も多いので、実際は三密回避ができていないと、私は認識しております。私も会社の中で、三密を回避しようということ、今日の会議のように、普段は隣で仕事をしている人でも席を離れたり、フェイスシールドをしたりしています。仕事の場であれば、自分の意思で少し離れることができたりしますが、生徒たちは、30分間とか50分間その環境の中から出られない状況にありますので、こういったインターネットの環境が整えば、どこにいても応えられると思っています。</p> <p>私が今少し思ったことは、学校は各学校単位であります。最近の部活動は学校単位ではチーム活動が行えなくなってきていて、高校になりますと、少し離れた学校とチームを組んで県大会に出ることもあります。今の単位は学校になっていますが、将来的に5年、10年先にはその単位では難しくなってくると思います。学校は生徒の数が少なくなれば閉鎖するところも出てきていますが、学校という箱物自体</p>

	<p>は残るわけなので、そういったところを活用しながら、もう少し大きい単位で学校づくりができないものでしょうか。今の中学校区域ではなく、2つの中学校区域を合わせたくらいの単位で、こういったGIGA構想や箱物を活用しながら、小・中学校の児童生徒たちを教育していく学びの場を与えることを考えていければいいなと思っています。将来的に、学校区割りをどう考えているのかというところも含めて教えていただければと思います。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。今の質問に関して、お願いします。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>ご質問ありがとうございました。とても壮大な大きな話ですので、学校支援課の一課長補佐がこうですとは、なかなか言えないところが正直いってあります。けれども、話に出てきました、例えば部活動でも今、スポーツ庁が令和5年を目指して休日の部活動については、学校の教員だけではなくて、さまざまな地域の方を入れる、地域部活動を進めましょうという動きが出てきています。つまり、いろいろなところで一つの学校単位ではなくて、地域だったり、もう少し大きな広がりだったりする中で学びを考えましょうということになっています。部活動は教育課程ではありませんが、大きな教育活動の一つで、価値ある教育活動ですから、そういう動きがさまざまなところに出てきています。一概にどういうふうになっていくか、具体的なイメージをお伝えすることはできませんが、学校というその地区に生まれたある年齢の子どもたちが一つの学年を組んで、一つのクラスを組むという枠組みは、だんだんと柔軟さを増してくることは間違いないと思います。そのときに、GIGAスクール構想のIT端末はとても有効です。離れていても、会話ができたり、思考を深めたりできますから、それを有効に使いながら学校のあり方が変わってくるので、GIGAスクールを前提にさまざまなことが考えられていくのだろうと想像しています。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。他にご意見ご質問がある方がいましたら挙手願います。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>超アナログ人間ですので、GIGAスクール構想によって、こんなことができるようになるのだな、今までできなかったことができるようになって大変便利だなと思いましたが、逆に今までやってきた取り組み、例えば直接自分で文を書いたり、活字を読んだり、お互いにコミュニケーションで高めあったりする活動などが、これからどうなっていくのだろうと思いました。まさか全部の授業をGIGAでやると</p>

<p>学校支援課</p>	<p>いうわけではないと思うので、そんなところを教えてください。</p> <p>ご質問いただきありがとうございます。たくさんの方から、そういった心配の声をいただいています。パソコンに向かって、本当に一人の世界だけでいいのかという話ですが、それはおっしゃるようになっていて、今までの、150年かけて培ってきた学びを否定するものではありません。</p> <p>ただICTを使うことで、先生も子どもたちも良くなる面もあります。例えば、40人の教室に1人の先生がいて、その先生は1時間の中で全員に必ず一言は声をかけようとしていても、なかなか全員には声がけすることができなかったり、子ども一人ひとりを見きれなかったりして、子どもたちからみると、自分の意見を表現する場や時間がないため、なかなか発言できなかったりするときに、iPadを使えば、自分の考えを表現することができます。例えば、ある社会の授業で、裁判を学ぶ内容があったとします。これは無罪か有罪か、執行猶予はつくのかどうか、といった授業で、有罪の人は青いカード、無罪の人は赤いカード、そうではない人は黄色いカードを選んで、iPadの画面に出しなさいと言うと、そこには意思決定が必要になるので、普段は発言できない子どもであっても、黄色のカードを示すことになるわけです。そうすると、A君は黄色いカードを選んだことを表現できます。そして、例えば黄色いカードを選んだ子どもが40人中10人いたとすると、A君は「僕と同じ考えの人が他にもいるのだ」と感じ、自分が表現したものを認められた気持ちになって、「B君も同じ黄色のカードを選んでいるから、B君のところについて話を聞いてみよう」というきっかけができます。今までは、授業中に何もしゃべらずに終わっていた子どもが、ICTをきっかけにして授業に参加できるといった例え話の一つですが、紹介させていただきました。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>大変よく分かりました。GIGAスクールをどんどん進めていってもらいたいと思っていますが、やはり直接話し合ったり、手で書いたり、それを読んだり、自分なりに考えたりする活動もぜひしてほしいと思います。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。では次の質問者の方、よろしくお願ひします。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>本日は大変よい機会を与えていただきまして、ありがとうございます。私からは、質問が1件とお願いが1件の二つございます。</p> <p>まず、質問ですけれども、学校教育のICT化については、ご説明</p>

にもありましたけども、2019年12月19日の文部科学大臣のメッセージの中で、最先端のICT教育に取り組んでいくという話があったから2年間経って、いよいよ本格的に動き出すことになったわけです。しかし、手元の資料では、学校現場の現状として、ICT授業のできる学校職員が少ないとあります。これはどういうことでしょうか。どういう準備を2年間の中でされてきたのでしょうか。特に西区は地元新潟大学もあり、教育学部もありますので、おそらく最先端の教育という部分では、大学で専門に取り組んでいる機関もあるかと思えますけれども、今後の先生方の研修等で、具体的にそういう機関との連携や取り組みについてございましたら教えていただきたいと思えます。

続いてお願いなのですが、資料の最後のほうに、校務の効率化があります。私自身もそうですが、教育関係のお話になると、常に子どもたちを中心に目が向きますが、やはり学校の先生方の教育環境は大事なことだと思っています。ぜひ、臆することなく、業務の効率化については、先生方が有効な教育をやっていくためにも取り組んでいただきたいと思えます。

#### 学校支援課

ご質問いただき、ありがとうございます。

まず、最初二つが研修のことと、先生方の慣れや忙しさにつながるかということ、もう一つが校務の効率化で、どうなるのだろうということだと思えます。

まず研修ですが、本格的に研修が始まったのは、今年度の8月からの教職員研修で、コロナ禍のため、オンラインを使って行いました。今までに教職員研修を5回行い、2月17日に6回目を実施します。

オンラインで、最初は茨城の先生とつながって、教職員研修を行いました。本当にオンラインって便利ですね。私たち指導主事も、熊本の先生とオンラインでやり取りしたり、東京の人とアプリケーションの使い方のやり取りをしたりしましたが、オンラインで済む研修もたくさんあるので、そういった形での研修を計画的に入れながら実施していきました。また、今、GIGAスクールサポーターを配置しておりまして、GIGAスクールサポーターが研修に行って、先生方一人一人のニーズに応える研修を行ったり、今年4月からはICT支援員が各校を訪問し助けたり、先生方に講義したりすることもやっていきます。そういったことをぜひ続けていきたいなと思っています。

また、iPadですが、先ほど申し上げたように子どもたちは使いこなしています。それは本当にすごいなと思っています。ベテランのある先生が言われたことですが、「私が使えなくても、子どもたちが私に教えてくれるのです」と言って、やっていたという話も聞いて

います。そのような形で、先生方が苦にならないよう一緒になって、先生と学びができるように、これからも進めていきたいと思ひます。

最後に、校務の効率化ですが、一つ自分が思ふことは、私は中学校にいたので、授業が終わると生徒のノートを40人分集めて、二つくらいのかごに入れて、教室から教務室に持っていった覚えがあります。それが今や、i P a dで、子どもたちがノートを写真に撮って、さきほどの提出箱に入れれば、教務室で指ですーと動かすだけで、先生は子どもたちのノートを見られます。そして、見たノートに赤を入れて、子どもたちにメッセージを返すことができます。かごに40人分のノートを入れて集めることは要らなくなって、でもちゃんと子どもたち一人一人にメッセージを返せて、それまで見過ごすことが一部あったものがなくなって、というなら、お互いにいいことですよね。そんなことを、また先生方と話し合つて見つけながら進めていきたいと思ひます。

司 会

ありがとうございました。続きましてお願いします。

自治協委員

今、G I G Aスクールなどの話をいろいろ聞かせてもらつて、一つお願いがあります。先ほどG I G A宣言があつて、学びを深め、学校生活をよくするとか、人の嫌がることはしませんとか、ルールとして確立されていましたが、子どもたちの中には、ルールは分かつていても、なかなかうまくいい方向に使えないことがたくさんあります。なので、ルールを押し付けるよりも、せつかくネット環境を子どもたちみんなに提供するので、時間と手間が少しかかるかも知れませんが、授業の中で子どもと一緒によりよい方向でネットを使つていくという学びもしていただけるとありがたいなと思つています。

そして、各校のW i - F i環境ですが、とりあえず教室にはW i - F iが飛んでいますが、このi P a dを使つての授業は、決して教室の中だけの学習ではありません。いろいろな教科で、図書室と連携したり、先ほどの話にも出ていたように、体育の時間に連動したりすることもあろうかと思ひます。そうすると、図書室や体育館など学校のあらゆる場所でW i - F i環境が今整つているのか、質問させていただきます。

それから、今ほども効率化ということで、i P a dの情報で理解しあつていくという話でしたが、私自身がもう歳を取つているせいなのか、メールで送られてくる添付ファイル等の資料を読み込むときに、文字（印字）化しないと、なかなか文章間の行間のところが分からないことがあります。今の子どもはそういうことがないのか、分かりませんが、例えばプリント化するとき、各教室にエアプリンターの設



<p>学校支援課</p>	<p>置をこれから考えていくのか、そのあたりも教えてください。</p> <p>ご質問、ありがとうございます。質問は3点あったかと思います。</p> <p>一つ目は、授業を子どもたちと一緒に作ってくださいという要望を含めたもので、本当におっしゃるとおりで、先生方よりも子どもたちの方が先の知識や技能を持っていることもありますし、先生方が率直に教えていって、子どもたちに言えるようなお互いの関係づくりをしてほしいと思います。その中で、本当の意味で広い情報活用能力を身につけてほしい、それは本当におっしゃるとおりでございます。</p> <p>二つ目は、利用の場所のこと、次はエアプリンターの話ですが、ここは少々耳が痛い話で、普通教室は全てインターネットがつながりません。また、特別教室の家庭科室や理科室などは、全部ではありませんが、一部はつながるようになっています。ただ今おっしゃった体育館と、先ほど申し上げた、よく使う場所以外の特別教室の一部では（Wi-Fiが）使えない場所もあると、施設課から聞いています。</p> <p>そこで、代案として、AirDropというものがあります。iPadを使っている方は知っていると思いますが、AirDropは、線をつなげなくても、隣の人と送り合うことができるのです。クロームブックやウィンドウズなど、他の機種にはその機能はなく、iPadだからできる機能で、それゆえにiPadを選んだのです。</p> <p>このことを理解していただいて、体育の授業でもお互いの資料を取り合っって見せ合うような、先ほどの英語の授業でもそうしていましたが、AirDropの機能をうまく活用しながらやっていただきたいと思っています。最後のプリンターについては、これから予算の方も頑張っていきたいと思っておりますとしか言えません。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。終わりの時間が迫ってきましたので、ここで1回、質問数を確認させていただきます。質問したい方がいらっしゃいましたら、挙手願います。（2人挙手を確認）はい、ありがとうございました。あと2人でしたので、お願いいたします。</p>
<p>P T A 関 係</p>	<p>私もタブレット教育に興味があって、私自身が手を挙げて、今回のミーティングに参加させていただきました。</p> <p>GIGAスクールについての質問ですが、先ほどの話の中で、例えばどこへでもiPadを持って行ける、自宅に持ちかえって学習することもできるということでした。また、自宅にWi-Fi環境が整っていない場合は、つながらないような状況でも学習できる内容を与えるということでした。私は、いずれコロナで突然学校に行けなくなるようなことになって、双方向で受信して授業をすることも近々起きる</p>

のではないかと考えています。実際、私の家はWi-Fi環境を整えられない状態で、家に光回線を直接引けないので、携帯会社が出しているような、電源を入れればWi-Fiがすぐ使えるようなものを使っています。ちょうど電波基地と基地の狭間のような場所にあって、少Wi-Fi環境が少々悪くて、ダウンロードはできますが、アップロードはものすごく時間がかかるので、要するに双方向での受信はとても苦しい状態です。なので、そういう環境を整えるということ、いつまでに目標にしているのかについて伺いたいです。

また、ロイノートに今のLINEのように、みんなで会話ができるような機能がありましたが、LINEもそうですが、結局やはり文章だけで会話をしていると、勘違いや捉え方の違いで、不快な思いをさせることがあると思うのです。なので、できれば、顔を見て直接話をする環境を、学校でも自宅にいてもできるように整えてほしいという気持ちがあります。いつ頃を目標に考えているのか、伺わせてください。

#### 学校支援課

ありがとうございます。大きく分けて二つありました。一つはオンライン環境のこと、もう一つはオフラインでどの程度のことをするのかということだったと思います。

まず、オフラインの話ですが、カメラを撮ったり、メモを書いたりする機能は、オンラインでなくてもできます。例えば、小学生が朝顔の成長記録を取っていく中で、カメラ機能やメモ機能を使って、成長して気づいたことを書いたり、写真を貼り付けて作ったりすることは、インターネット環境には全然関係なく、iPadがあればできるものです。カメラやメモの他にも、実際さきほどのパワポ、プレゼンテーションもオフラインで作られます。それだけでもかなりの学習ができますので、まずお話しておきたいなと思いました。

そして、学校へ行ってインターネットにつながると、その作ったものを提出でき、これがiPadの良さです。

二つ目のネットワーク環境ですが、おっしゃるように、休業中も学校が工夫をして、Zoomでつながって授業をしていた学校の話も聞いています。新しいiPadにZoomが入っているかということ、現時点では入っていませんが、ご意見にあったように、Zoomなどのアプリケーションを考えていきたいなと思っています。また、そういう環境がないご家庭の話が今ありました。そこで、新潟市教育委員会としては、12月議会で議員のご意見を承って協議、議決をして、Wi-Fiルータといったインターネットにつながるための道具だけは用意することにしました。新潟市内の約20%の皆さんに対応できるよう、約1万2千台を今入札しようと計画しているところです。なの

<p>司 会</p>	<p>で、4月からその貸与を始めようと思いますので、それを使ってやるきっかけができればいいなと思っています。ただ、電波と電波の狭間のことについては、難しいところですが、私も狭間に立って頑張ります。</p> <p>ありがとうございました。では、最後の質問者の方をお願いします。</p>
<p>P T A関係</p>	<p>教育現場の立場から、G I G Aスクールは、本当にすごくいい話だと思っています。子どもが4人いる中で、親の立場から考えますと、やはりデメリットの部分や、体に悪影響がないか気になっています。例えば、見えない電磁波が脳に悪影響を与えると、いろいろ言われていますが、小さいときからi P a dなどをやっていると、子どもの脳はものすごく柔らかくて電波も通しやすいという話も聞いたことがあるので、体に悪影響が出ないか心配になります。今後、i P a dを使った授業が始まると、そういったことも子ども一人一人の知識として頭に入れて、分かっておかないと、おそらく家に帰ってもi P a dをやり続けて、抑えられなくなってくると思います。体に及ぼす影響を教えることは、今後どういうふうに行っていくのか、お聞きしたいです。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>ご質問、ありがとうございました。おっしゃること、よく分かります。そのとおりですね。ご心配だと思います。</p> <p>学校の職員も心配をしているところがありまして、12月に学校の授業でどう使うかなどをまとめた、G I G Aスクール構想のガイドラインを出しました。それはホームページでも見られますので、あとで見てください。</p> <p>その中に一つの目安、「30」という数字をキーワードにした説明が書いてあります。具体的には30分使用したら、まず目を休めましょうということを、ガイドラインとして学校の職員は知っています。これを学校でi P a dを使う際に、先生方から子どもたちに伝えてもらい、また、家でもずっと長い時間i P a dを見ないよう守ってねと伝えていきます。二つめのキーワードは、30センチ離して使いましょうというもので、この二つの「30」というキーワードを使っています。そういうものをガイドラインに載せることで、i P a dに近づきすぎて長時間使用することを防ぐよう、学校でも取り組みますし、話もします。そして、そのことを受けて、ご家庭でもそのように働きかけをしてもらえばと思っています。</p> <p>また、私が説明したガイドラインの中で、37℃と説明をしましたが、ガイドラインを作成するときには、斉藤教授など専門家のご意見</p>

<p>司 会</p>	<p>を聞きながら作っています。G I G Aのガイドラインも同じで、お医者さんの立場であったり、さまざま技術系の立場の方だったり、さまざまな方が結集して、今この制度を国として作っています。もちろん今、分かっていることについては予防線を張れますが、どういうやり方がより良いのかということについては、やっていく中で、もしかして新しいことが、モラル的なことも含めて出てくるかも知れません。事前に分からなかったことが新たに出てきたときに、すぐに対応できるよう、さまざまな知見を私たちは集めていますし、ご家庭でも学校でもそうしたものを反映できるよう、私たちも勉強していきたくと思っています。何かそういうご意見がありましたら、教育委員会にぜひご一報いただければと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>議 事</p>	<p>4 西区自治協議会会長挨拶 西区自治協議会会長 下川 照雄 様</p>
<p>司 会</p> <p>自治協議会 会 長</p>	<p>閉会にあたりまして、西区自治協議会会長、下川様よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>皆さん、こんにちは。今日はお忙しいところ、参加いただきましてありがとうございました。今日の話聞いて、もうSFの時代ではないのだな、現実になったのだなということをつくづく感じています。ただコロナの問題が起きてから、入学式も卒業式もお断りということで、学校になかなか行けない現状なので、実際にiPadを使って勉強している姿を拝見できなかったのです。</p> <p>今日、初めて見聞きをしたところで、私は大変衝撃を受けています。私自身はスマホもタブレットも使っていますが、なかなか使いこなせてはいません。ですが、子どもたちがゲームをしている姿を見ると、園児や小学1年生くらいの子どもでも、タブレットをずいぶん使いこなしています。そういうことの延長線でいけば、勉強にも熱が入り、いろいろな意味ではいいのではないかなと、今日聞きながら感じていました。</p> <p>ただ、こうした中で、先生方が大変レベルアップをしなくてはならず、相当負担があるのだろうなと思っています。G I G Aスクールに追いついていかないと、先ほども話が出たように、子どもたちの方が先に行って、子どもから教えてもらうこともあるのではないかと、それはそれで、相互の信頼関係の中ですからいいとは思いますが。</p> <p>ただ一つ、やはり少々不安に思ったことは、子どもの近視率が非常に高いですね。小学校の4・5年生になると50%以上の子どもが</p>

	<p>近視です。高学年だと70%くらいになります。怖いのはその後で、近視もいろいろな種類がありますから、失明する状態になることもあると聞いています。そんなことも含めて、先ほどの回答にもありましたが、ぜひ考えてもらいたいと思っています。</p> <p>それから、最初の質問にもありましたが、私も同じ意見で、やはりGIGAスクールを進めていくと、心がなくなってしまうのではないかなという心配が少しありました。それを打開するために、いろいろな教育の中に会議も入れていくと聞いておりますけれども、せっかくGIGAスクールも誕生して進んでいくのですから、そういうことをテーマにした教育もやってもらえば、いじめなどもなくなっていくのではないかなと感じました。</p> <p>コロナに対しても、我々自治協としても、一人一人が一生懸命考えながら、知恵を出しながらやっていますし、コミ協、自治会においても同じような取り組みをしています。そうした中で、皆さんがいじめについて一生懸命教えていただいていることに大変ほっとしました。医療関係者や感染者への誹謗中傷には、私たちも非常に心を痛めておるところでございますけれども、これからも子どもたちに一生懸命教えていただきたいと思ひますし、我々もできることは側面からバックアップして一緒にやっていきたいと思っていますので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>最後になりますけれども、今日は本当に忙しい時間、参加していただきまして、どうもありがとうございました。</p>
議 事	5 閉会
司 会	<p>ありがとうございました。以上をもちまして、令和2年度西区教育ミーティングを閉会いたします。本日、机上に配付しました茶色の封筒の中にアンケートがございますので、本日の自治協議会終了までにご記入いただき、お帰りの際にアンケート回収箱に入れていただきたいと思ひます。</p> <p>皆様、長い時間にわたりありがとうございました。</p>

令和2年度

資料3

## 西区教育ミーティング

### 学校現場の現状

～GIGAスクール構想を見据えた取組～



令和3年1月29日



# 第3期新潟市教育ビジョン(H27~31)

基本施策 3	創造性に富み、 世界と共に生きる力の育成
施策 3-3	<b>【NEW】</b> 情報教育の充実と ICTを活用した教育の推進
最終年の 成果指標 ・進捗状況	① コンピューター等を活用し学習指導した 教職員の割合 ・小学校・・・目標:90%、結果:99.1% ・中学校・・・目標:55%、結果:98.3% ② アクティブ・ラーニングを実施した学校の 割合・・・目標:100%、結果:100%

達成



# 第4期新潟市教育ビジョン(R2~6)

<p>基本施策 3</p>	<p>創造性に富み、 世界と共に生きる力の育成</p>
<p>施策 3-3</p>	<p>情報教育の充実と ICTを活用した教育の推進</p>
<p>最終年の 成果指標 と現状</p>	<p>①「新潟市の学校教育」実践状況調査で、 肯定的な回答をした小中学校の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICTを活用した事業の実践 …最終目標:100%、現状:95.7%</li> <li>・ 情報モラルが向上する授業の実践 …最終目標:100%、現状:95.7%</li> </ul>





# 第4期新潟市教育ビジョン(R2~6)

<p>基本施策 3</p>	<p>創造性に富み、 世界と共に生きる力の育成</p>
<p>施策 3-3</p>	<p>情報教育の充実と ICTを活用した教育の推進</p>
<p>最終年の 成果指標 と現状</p>	<p>② 全国学力・学習状況調査の質問用紙の「授業でICTをどの程度使用したか」で、「週1回以上」と回答した児童生徒の割合                  ・小学校・・・最終目標：90%、現状：22.9%                  ・中学校・・・最終目標：90%、現状：22.3%                  など ※GIGAスクール実現事業の動向に合わせ指標を見直す</p>



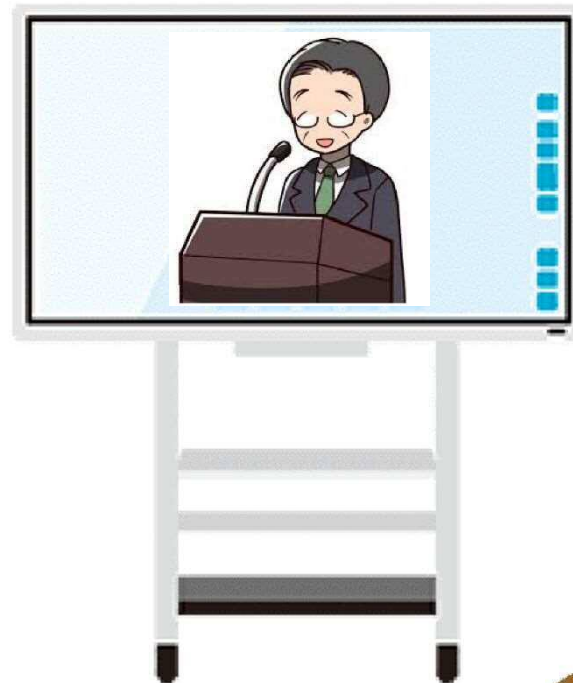
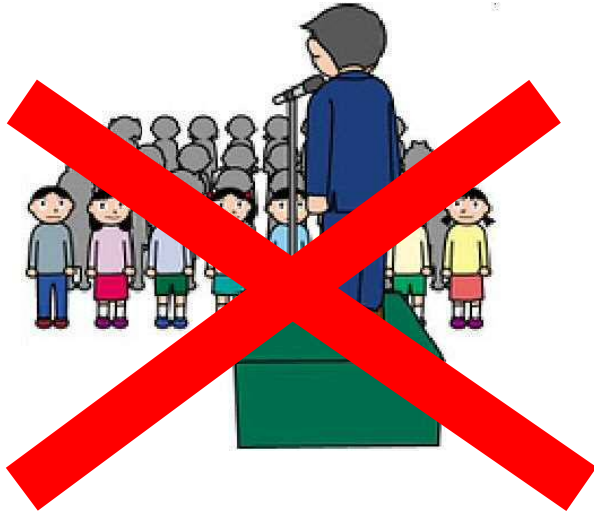
## これまでの取組の概要と成果

<p>タブレット 配布</p>	<p>全ての小中学校にタブレットを13～16台 配布(小学校16台、中学校13～16台) →【R2】全ての小中学校に1人1台 タブレットを配布へ</p>
<p>WiFi環境 整備</p>	<p>小中学校に移動式の無線APを2台整備 →【R2】全ての小中学校、特別支援 学校の普通教室等でWiFi環境を整備</p>
<p>研修体制</p>	<p>① 管理職向け各種研修会を実施 ② 教職員向け各種研修会を実施</p>



【事例①】

コロナ禍のため、校長室と各教室を  
結ぶ「**オンライン全校集会**」を実施した





【事例②】

調べ学習のツールに  
インターネットが加わった



【事例③】

マット運動を撮影し、  
動画再生で自身の  
動きを確認した

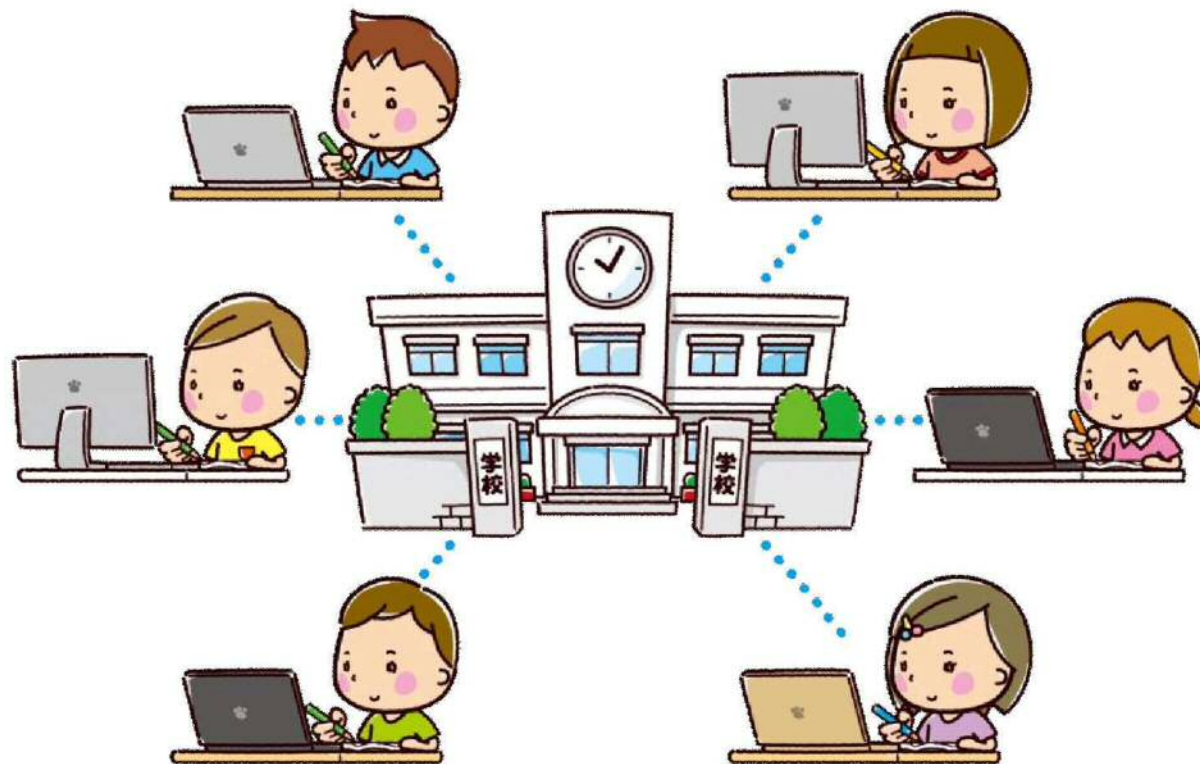


【事例④】

オンライン通信で工場の方から話を聞いた

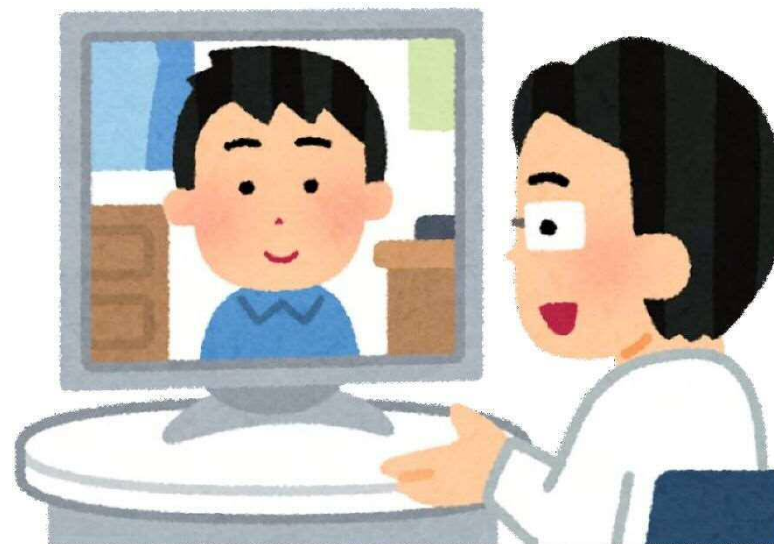


【事例⑤】  
運動会の様子や公開授業を  
YouTubeで期間限定配信





【事例⑥】  
不登校の子どもと  
互いの顔を見ながら  
対話できた  
(オンライン面談)



▼  
GIGAスクール構想の実現・推進により  
ICTを活用した学校の取組は、今後  
ますます広がっていく





- ① 移動式無線 A P を利用する場合に  
優先 L A N のコンセントが必要なため、  
利用場所が限られる  
➡【R2】WiFi環境の整備拡充へ
- ② タブレット台数が少なく、自由に使えない  
➡【R2】1人1台のタブレット配布へ
- ③ ソフトの使い勝手が悪いものが多い  
➡【R2】ロイロノートを活用した  
授業づくりに刷新へ



④ ICT授業のできる学校職員が少ない

➡【R2】学校職員研修の

さらなる充実へ

⑤ 情報モラルの  
さらなる向上が必要

➡【R2】情報リテラシー  
の強化へ







- **学びにおける時間・距離などの制約を  
取り払う ～ 遠隔・オンライン教育の実施 ～**
- **個別に最適で効果的な学びや支援  
～個々の子どもの状況を  
客観的・継続的に把握・共有～**
- **校務の効率化**  
～学校における事務を迅速かつ便利、効率的に～
- **学びの知見の共有や生成**  
～教師の経験知と科学的視点のベストミックス～